

2026年5月期通期 決算報告

シグマ光機株式会社

2026年 7月 16日 (木)

証券コード： 7713



目次

1. 2026年5月期通期 決算概要・2027年5月期通期見通し

取締役 管理本部長 兼 経理部長

石井 康之

2. 中期経営戦略・主要マーケット別2027年5月期通期見通し

執行役員 経営企画部長 兼 総務人事管掌

本多 隆

3. 質疑応答

- 当初想定よりエレクトロニクス業界等の需要回復が遅れるも、第4四半期から持ち直し。
- 海外地域向けは、米国地域&中国地域を中心に総じて回復基調で推移。
- 価格改定の効果、海外子会社の損益改善、高付加価値製品の需要回復等により増益。

【百万円】	FY24		FY25		FY26				
	実績	YoY	実績	YoY	実績	YoY	構成比	期初予算比(額)	期初予算比(率)
売上高	11,213	△1.4 %	11,580	+3.3 %	11,439	△1.2 %	100.0 %	△255	△2.2 %
営業利益	1,178	△21.7 %	1,131	△4.0 %	1,179	+4.3 %	10.3 %	△40	△3.3 %
経常利益	1,349	△20.2 %	1,269	△5.9 %	1,304	+2.8 %	11.4 %	△15	△1.2 %
親会社株主に 帰属する 当期純利益	687	△54.0 %	986	+43.5 %	831	△15.7 %	7.3 %	△53	△6.1 %
1株当たり 当期純利益	97円03銭		139円23銭		117円36銭		—		—
平均為替レート									
1USD	144.40円		152.77円		150.97円			140.00円	
1Y-円	156.80円		163.71円		174.54円		—	155.00円	
1人民元	20.14円		21.13円		21.29円			19.50円	
1SGD	107.46円		113.97円		116.94円			108.00円	

2 セグメント別売上高・営業損益（連結）

売上高

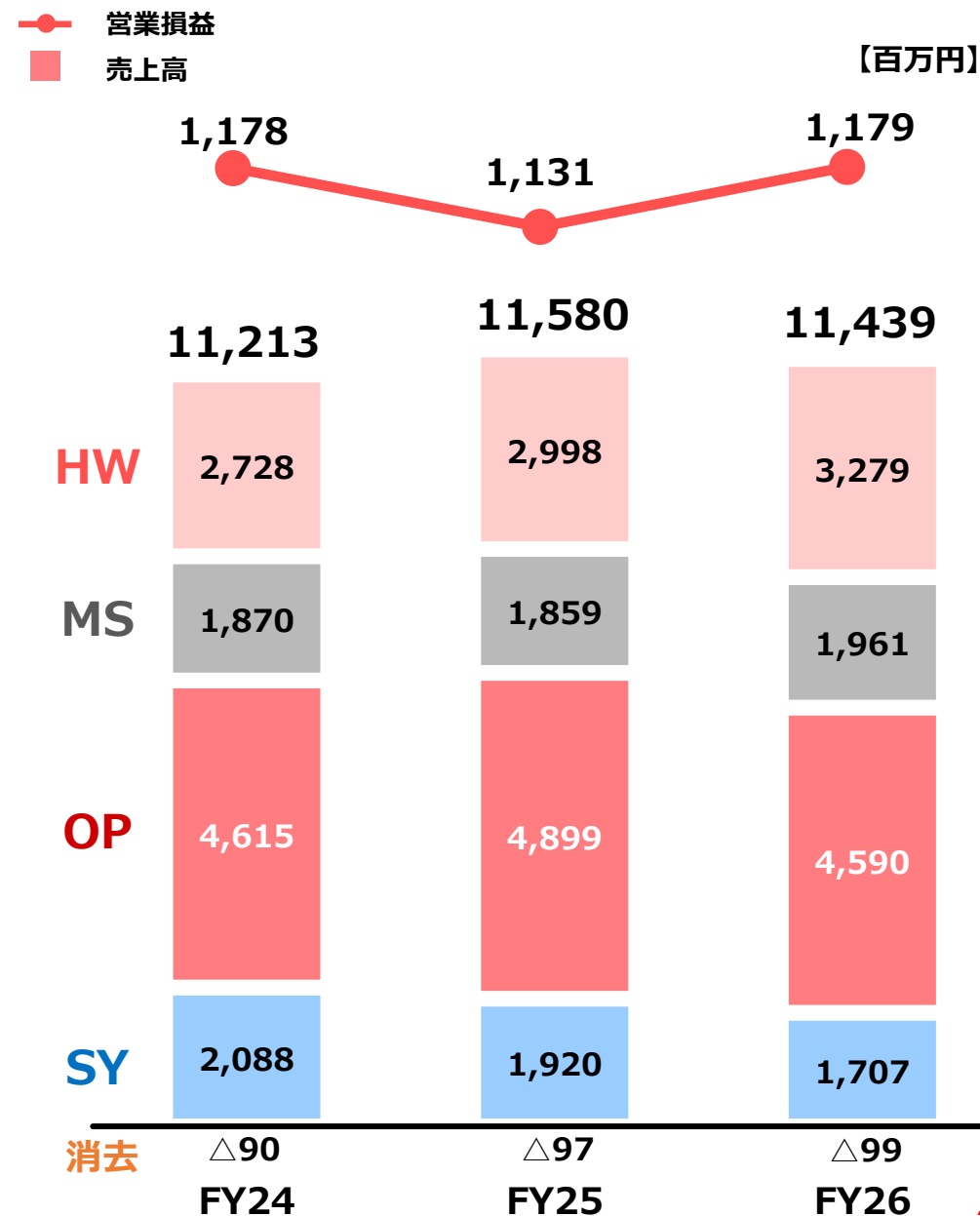
【百万円】

製品区分	FY24	FY25	FY26		
	実績	実績	実績	構成比	YoY
要素部品事業	9,215	9,757	9,831	85.9 %	+0.8 %
光学基本機器製品(HW)	2,728	2,998	3,279	28.7 %	+9.4 %
自動応用製品(MS)	1,870	1,859	1,961	17.1 %	+5.5 %
光学素子・薄膜製品(OP)	4,615	4,899	4,590	40.1 %	△6.3 %
システム製品事業	2,088	1,920	1,707	14.9 %	△11.1 %
光学システム製品(SY)	2,088	1,920	1,707	14.9 %	△11.1 %
消去	△90	△97	△99	△0.9 %	-
合 計	11,213	11,580	11,439	100.0 %	△1.2 %

営業損益

【百万円】

事業区分	FY24	FY25	FY26	
	実績	実績	実績	YoY
要素部品事業	1,516	1,642	1,636	△0.4 %
システム製品事業	223	72	111	+52.5 %
消去	△561	△583	△567	-
合 計	1,178	1,131	1,179	+4.3 %

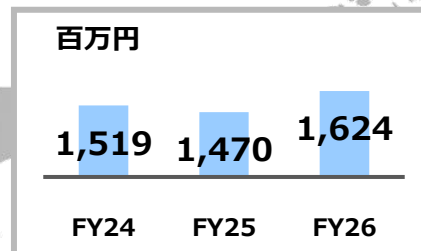
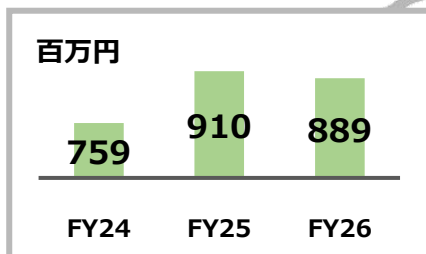


● 米国・アジア地域の回復基調を背景に海外売上高増加+13.2%(YoY)

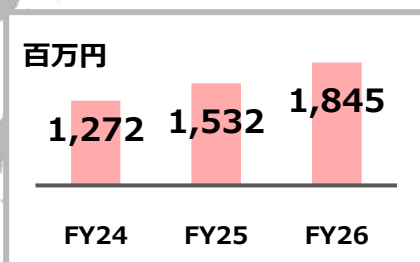
ヨーロッパ △2.3%(YoY)

アメリカ +10.5%(YoY)

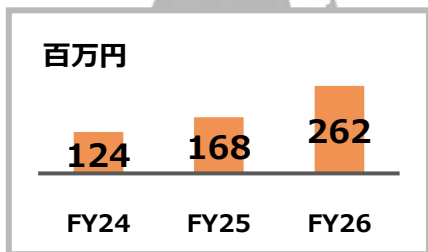
FY26'4Q
海外売上高
4,621 百万円
海外売上高構成比率
40.4 %



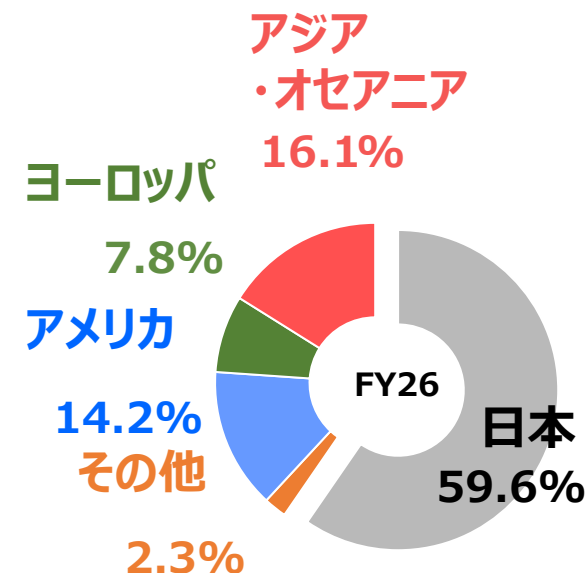
アジア・オセアニア +20.4%(YoY)



その他 +55.6%(YoY)



販売先別売上高構成比

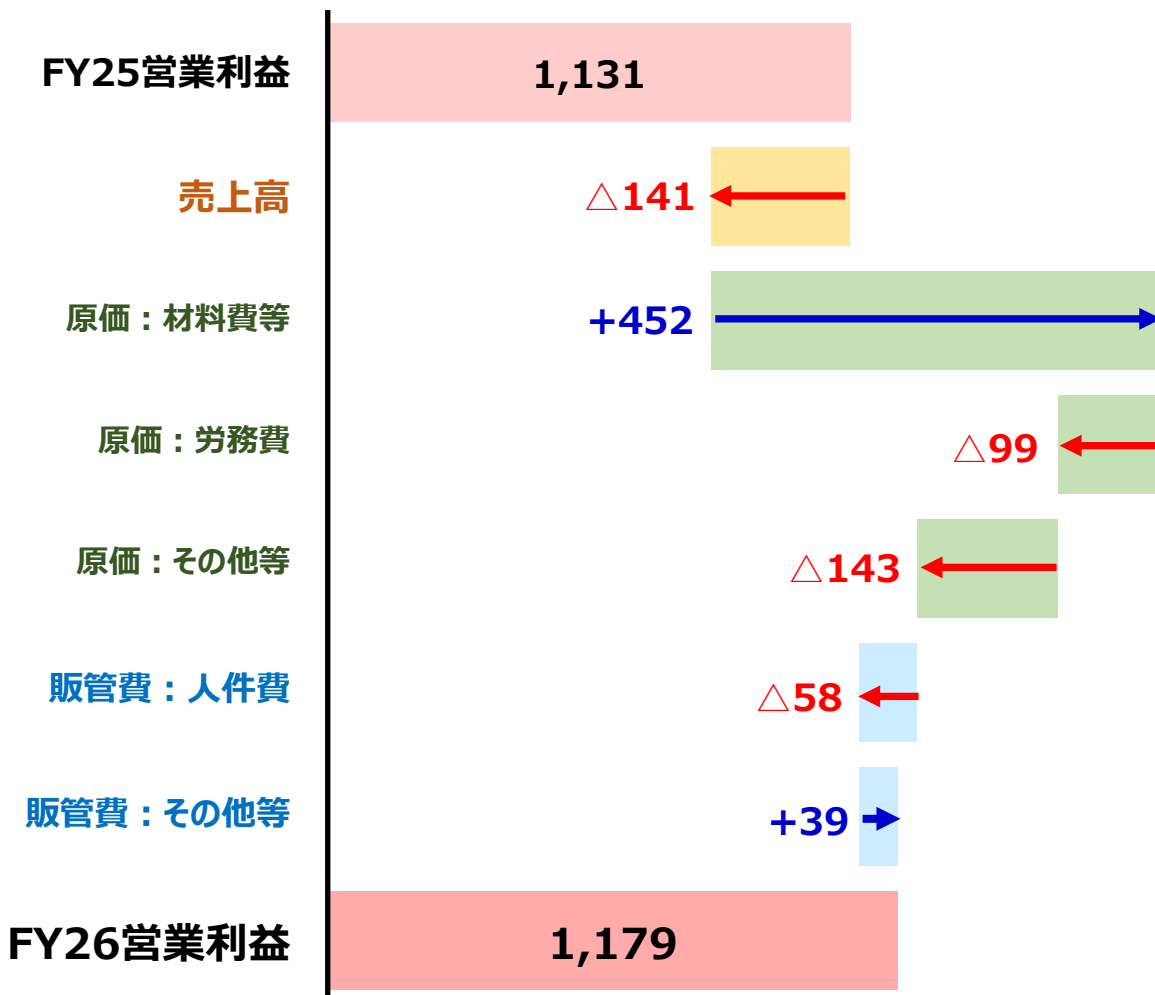


平均為替レート

	FY24	FY25	FY26
1USDドル	144.40円	152.77円	150.97円
1ユーロ	156.80円	163.71円	174.54円
1人民元	20.14円	21.13円	21.29円
1SGD	107.46円	113.97円	116.94円

● 価格改定の効果、海外子会社損益の改善等により、前年同期比48百万円の増益

(百万円)



■ 各項目の対前年比

(百万円)

売上高： △141（利益減少）

- ・光学素子・薄膜製品が低調に推移も、足元では回復基調推移。
- ・海外地域は米国・中国を中心に総じて堅調。

売上原価： △209（利益増加）

- ・材料費等： △452
価格改定の効果、費用削減効果（システム製品）
- ・労務費： +99
人員の増加及び賃金見直し等による人的投資の増加
- ・その他等： +143
米国関税関連費用の増加、工場棟の増設による減価償却費の増加等

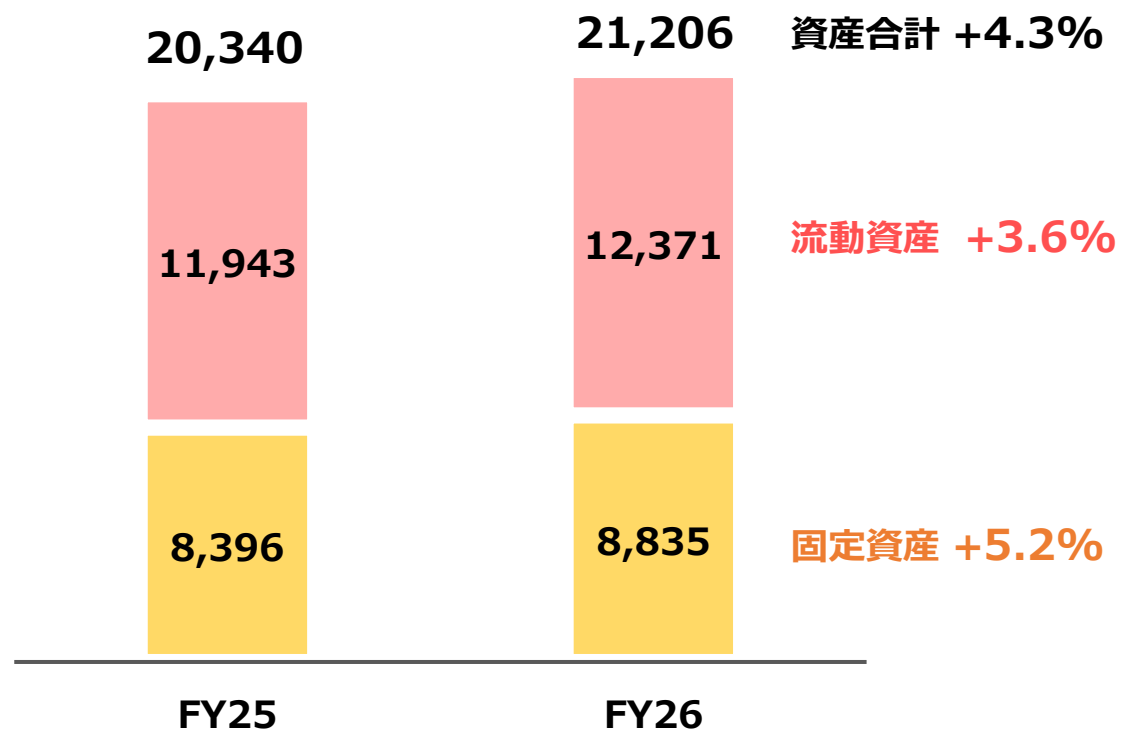
販売管理費： +19（利益減少）

- ・人件費： +58
人員の増加及び賃金見直し等による人的投資の増加
- ・その他等： △39
試験研究費の増加、米国子会社の新社屋への移転関連費用の剥落等

●自己資本比率は87.8%で安定推移。

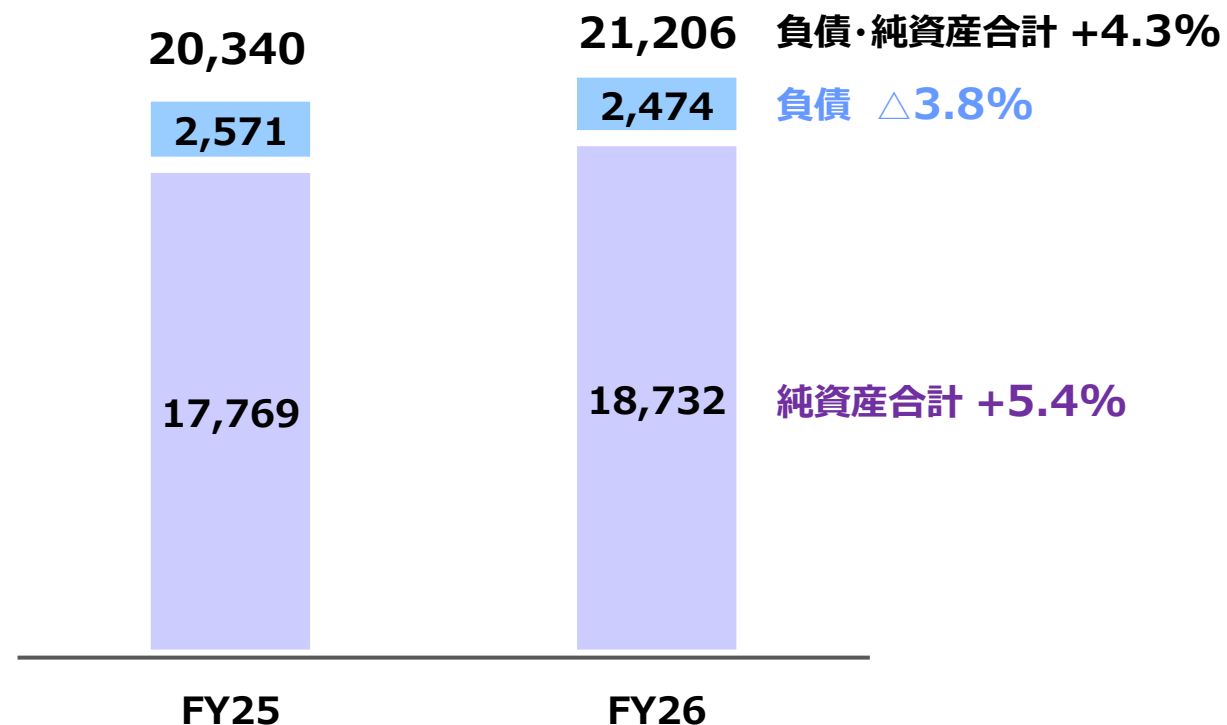
資産の部 / 増減率（YoY）

（百万円）



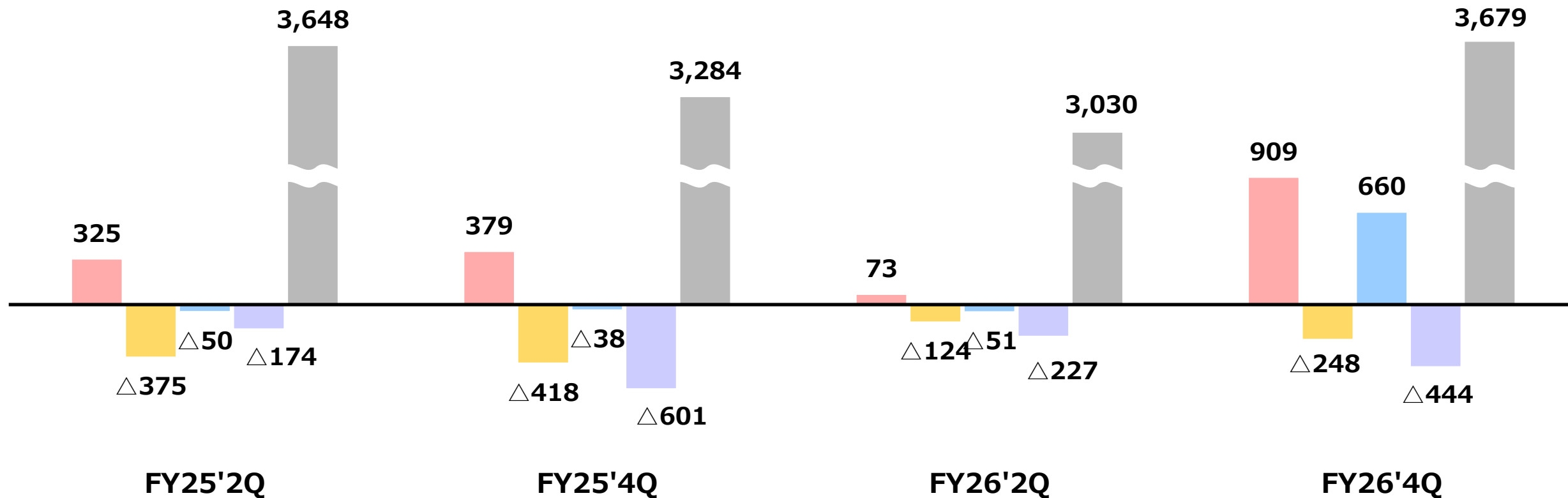
負債・純資産の部 / 増減率（YoY）

（百万円）



- 営業CFは当期純利益と資金流出を伴わない減価償却費の計上、仕入債務の増加。
- 投資CFは設備投資による減少が発生も、現金同等物の期末残高は増加。

■ 営業CF
 ■ 投資CF
 ■ FCF
 ■ 財務CF
 ■ 現金及び現金同等物の期末残高
 【百万円】



- 世界経済の先行き不透明感が強まる中、足元では、半導体業界等が回復基調で推移。
- 人的投資及び研究開発投資等が続く中、製品MIX改善等により営業利益は前年比増益。
- 調芯システム&医療製品を中心に、中長期的な戦略成長への取り組みを推進中。

【百万円】	FY25		FY26		FY27					
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	上期予算	下期予算	通期予算	構成比	YoY	YoY(%)
売上高	11,580	100.0 %	11,439	100.0 %	5,830	6,050	11,880	100.0 %	+440	+3.9 %
営業利益	1,131	9.8 %	1,179	10.3 %	675	680	1,355	11.4 %	+175	+14.9 %
経常利益	1,269	11.0 %	1,304	11.4 %	700	740	1,440	12.1 %	+135	+10.4 %
親会社株主に 帰属する 当期純利益	986	8.5 %	831	7.3 %	460	515	975	8.2 %	+143	+17.3 %
1株当り 当期純利益	139円23銭	－	117円36銭	－	64円95銭	－	137円67銭	－	－	－

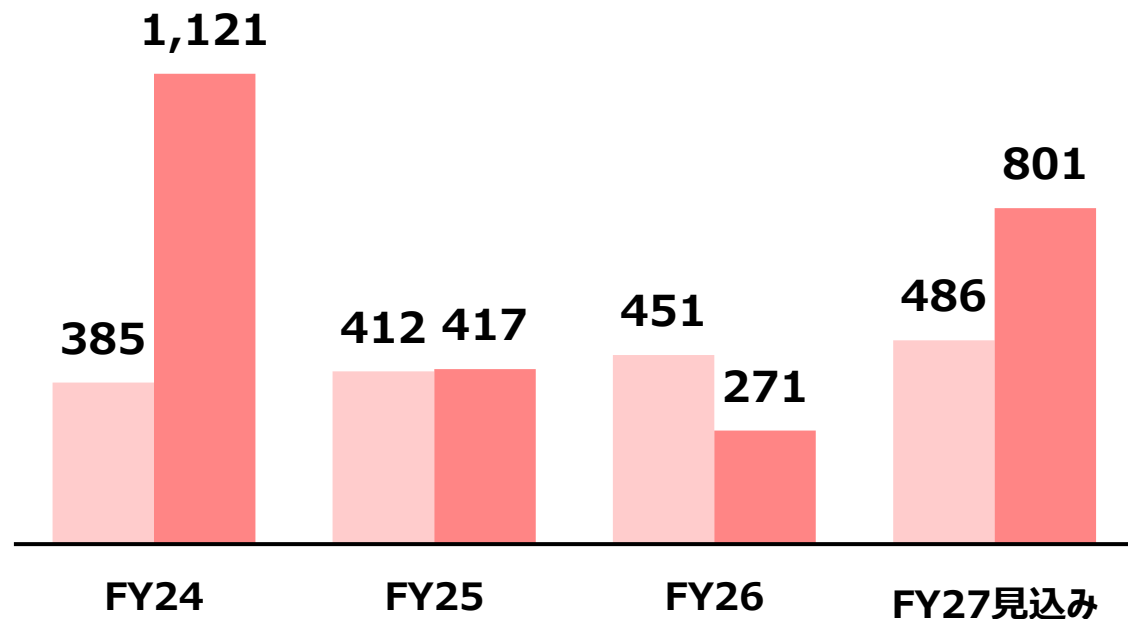
当期通期見込みの算定は、為替レート(期中平均)として1USドル=145.00円、1ユーロ=170.00円、1人民元=21.00円、1SGD=110.00円で計算しております。

- 設備投資は高付加価値製品の生産設備への継続投資。
- 将来に向けた研究開発を継続。

設備投資・減価償却費

(百万円)

■ 減価償却費 ■ 設備投資

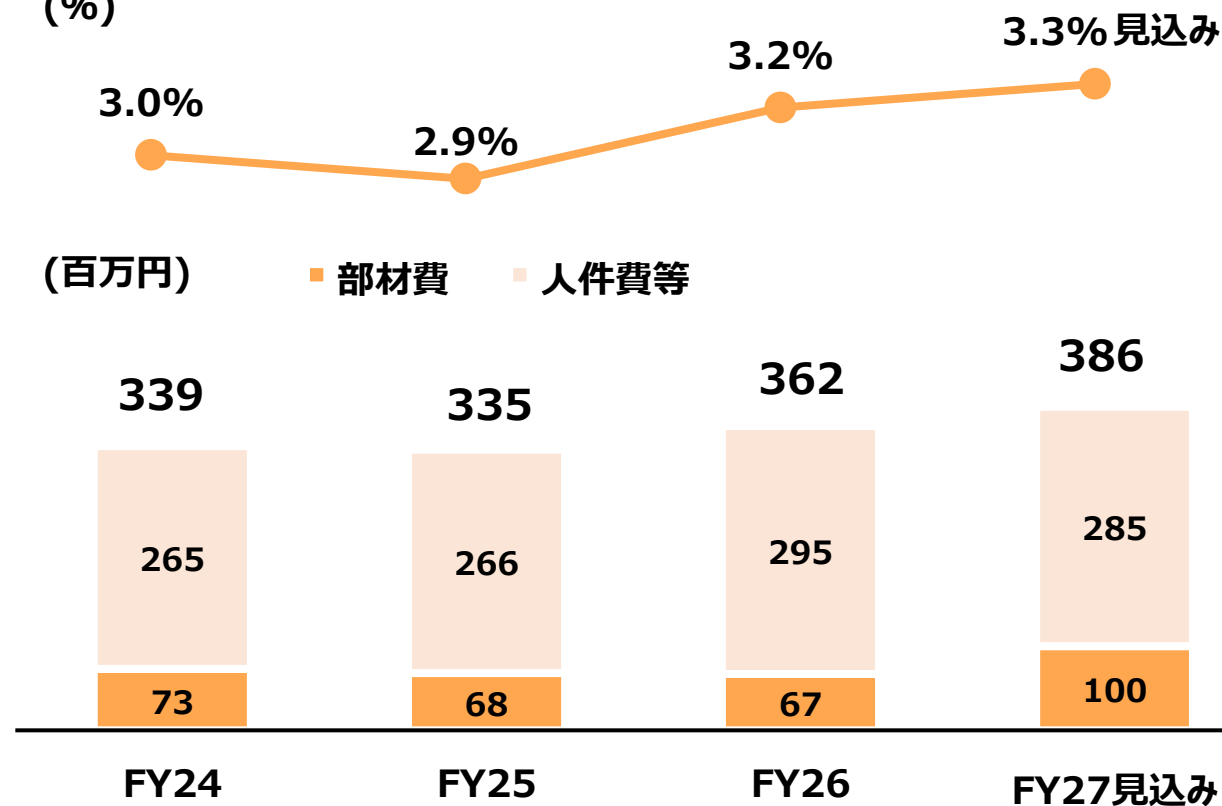


研究開発費・売上高構成比率（人件費＋部材費）

(%)

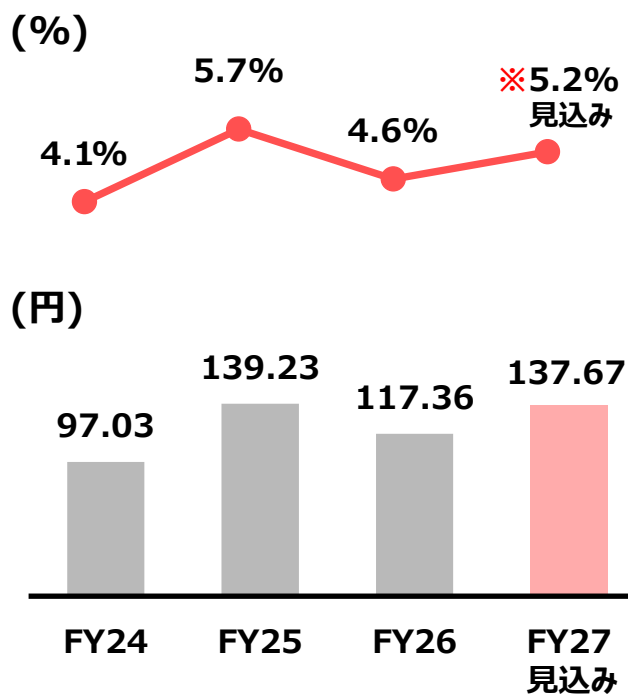
(百万円)

■ 部材費 ■ 人件費等



- 将来の成長に向けた先行投資により純資産が増加
- 配当性向30%以上を目途とする中、創立50周年を迎え、8円増額を実施予定

自己資本利益率(ROE) / 1株当たり純利益(EPS)



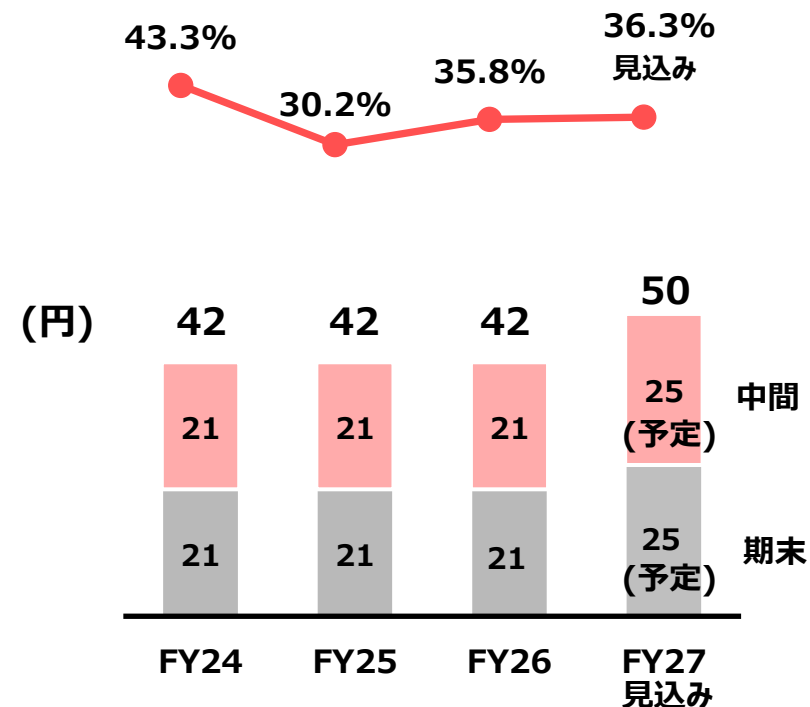
財務体質

(百万円)

	FY25	FY26
自己資本比率	86.9%	87.8%
利益剰余金	11,414	11,947
純有利子負債	△2,926	△3,397

配当性向・配当額

(%)



※FY26'4Q時点の自己資本額を元に試算しております。

目次

1. 2026年5月期通期 決算概要・2027年5月期通期見通し

取締役 管理本部長 兼 経理部長

石井 康之

2. 中期経営戦略・主要マーケット別2027年5月期通期見通し

執行役員 経営企画部長 兼 総務人事管掌

本多 隆

3. 質疑応答

経営理念

「光産業を通じ、社会に貢献します」

中期経営方針

「Great Reset」

持続的な企業価値向上に向けて、
「光技術の可能性」を先見し、長期的な視点に基づく企業風土に変革する

長期視点に基づく重点戦略（事業成長+サステナビリティ）を通じて、企業価値の最大化を目指します。

戦略成長：ビジネスモデル変革

→急成長分野向け需要の取り込み
及び高付加価値化の推進



PIC・CPO（光電融合）



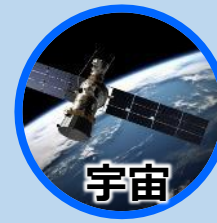
医療・介護



半導体



バイオ



宇宙



量子



AI・ロボティクス

オーガニック成長：成長戦略

→光技術の需要増加を背景に、
安定・継続成長 & 次の戦略領域の育成

内部持続可能性：事業継承

→内部統制・人材育成を中心に、
事業体制の持続可能性を向上



グループ経営



人材交流・育成

外部持続可能性：社会貢献

→教育・介護・環境等を中心に、
持続可能な社会に貢献する



光技術者教育



環境保全

企業価値

時間

中・長期

環境認識：光集積回路（PIC）・光電融合（CPO）の需要増加



AI需要増加



電力消費増加
& 処理能力ニーズ増加



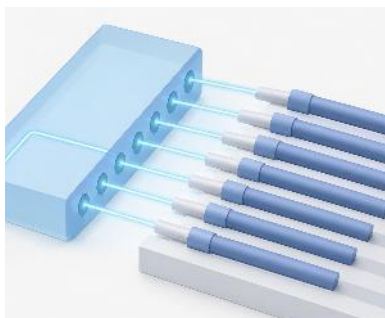
電気配線の限界
(消費電力・同時処理量等)



光接続による限界突破
(低損失・高効率等)

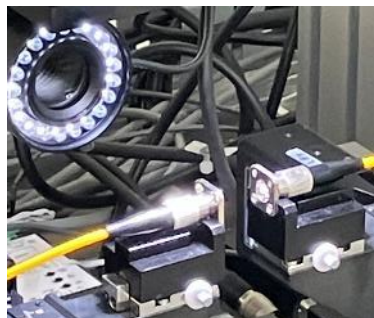
PIC・CPOの社会実装のボトルネック：製造プロセス

■ 電気と光の接合・評価



- ナノ単位的位置決め
※電子機器同士より、1桁以上高い精度が必要
- 位置決めと光学評価の同時実行
※電気・制御技術と光技術の融合が必要
- 高精度かつ高速自動調芯

■ シグマ光機の調芯システム



- 15年以上の調芯システム開発実績
- 独自の調芯アルゴリズムによる高効率化
- 1nm単位的位置決め精度
- 光学観察・測定・評価技術
- 高い内製化率とシステム統合技術

調芯システムの受注及び引き合いが増加中（量子研究・半導体関連業界・通信・計測等）

健康社会(脱水・熱中症)解消に向けた社会的ニーズと、当社独自の光による体水分把握ソリューション



- 無自覚のまま悪化する
※気づいた時には既に脱水が進行している場合がある
- 客観的な評価が難しい
※客観的な指標がなく、周囲からの本人の状態把握が難しい
- 適切な飲水行動につながらない
※取り巻く環境や感情等で適切な水分補給が阻害される
- 急変リスク
※高齢者・小児では短時間で脱水が進行しやすい



■ シグマ光機の体水分計（ハイドロバランスメータ）



- 一般医療機器 特定保守管理医療機器
- 特許・商標出願による参入障壁の構築
- 非侵襲・簡便な測定方式による高い普及性
- 独自指標「HBS」により定量評価を実現
- 医療機関・研究機関との連携により、臨床エビデンスを継続的に蓄積・性能向上



「ハイドロバランスメータ」は、脱水・水分補給の専門家
谷口 英喜先生(※)にご命名いただきました。

※神奈川県済生会横浜市東部病院患者支援センター長 医学博士

■ 主な活用シーン



病院・介護施設



行政機関



在宅介護
・在宅リハビリテーション



土木・建築現場



スポーツ・教育現場

医療機関、在宅高齢者、スポーツ・教育現場、特に土木・建築現場からの引き合いが多い

国家PJ&研究機関

- 量子研究向け光学ユニット対応中
- 量子研究向け
高精度調芯システム需要増加
- 光学デバイス関連の教育向け
調芯ユニットの増加



メディカルフォトンクス

- 放射線分野向け測定装置需要継続
- バイオ向けユニットの需要増加
- 医療機器・健康ガジェット機器需要増加



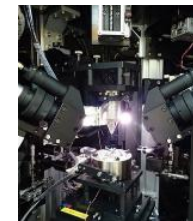
半導体・電子部品

- 半導体向け設備組込製品、
高精度光学ユニット需要増加
- 半導体検査向け対物レンズ需要増加
- 電子部品関連の設備用の
光学部品需要増加



通信・センシング

- 通信用モジュール向け
高精度調芯システム需要増加
- 通信用デバイス向け
高精度調芯システム需要増加
- 姿勢制御向けセンシング需要増加



防衛・航空宇宙

- 防衛向け光学ユニット増加
- 航空宇宙関連の需要継続



その他産業装置等

- AI・ロボティクス自動検査装置内製
& お客様評価継続



欧州 ・中東

- 欧州経済は先行き不透明な状況続く
- 研究機関向け継続受注フォロー中
- 産業分野向け新規案件開拓・販売強化
- ドイツ孫会社を中心に新規案件獲得活動の強化
- バイオフォトニクス向け製品の受注フォロー中
- 調芯システムの開拓・販売強化
- イスラエル等の中東地域向け需要増加

北米 ・南米

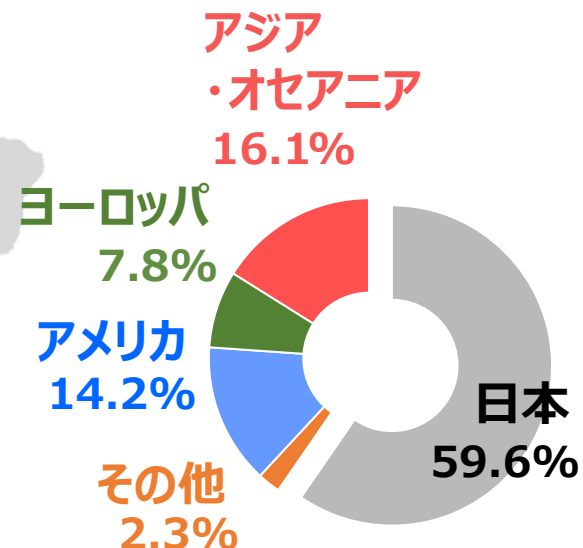
- 米国経済の先行き不透明も案件は徐々に増加
- 半導体有望顧客からの光学ユニットの案件継続対応中
- 自社生産体制を構築し、高付加価値製品の販売強化
- カスタム製品を中心とした新規OEM案件の獲得強化
- 国家PJ等、高難度チャレンジ案件継続フォロー



アジア ※日本除く

- 中国産業分野の生産設備向けの需要は増加
- 先端産業の生産設備向けの需要は増加傾向
- 台湾を中心に調芯システムの需要増加
- 東南アジアの量子研究分野向け等の案件増加
- 東南アジアの現地光学ユニットの開拓・販売強化

(参考)2026年5月期通期
販売先別売上高構成比



目次

1. 2026年5月期通期 決算概要・2027年5月期通期見通し

取締役 管理本部長 兼 経理部長

石井 康之

2. 中期経営戦略・主要マーケット別2027年5月期通期見通し

執行役員 経営企画部長 兼 総務人事管掌

本多 隆

3. 質疑応答

ご清聴ありがとうございました。

本説明会にて提供させていただいた情報および本資料内に記載されている当社グループに関する業績予想、方針、経営戦略、目標等に関しては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。

よって、今後様々な要因により将来の見通しに関する記載事項や予想数値等が変化することが考えられます。すなわちこれら記載事項や予想数値等はその性質上、将来そのとおりに実現するという保証は致しかねますのでご留意ください。

補足資料

四半期別セグメント別売上高・営業損益

売上高

	FY25'1Q	FY25'2Q	FY25'3Q	FY25'4Q	FY26'1Q	FY26'2Q	FY26'3Q	FY26'4Q
【百万円】	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績
要素部品事業	2,314	2,428	2,648	2,365	2,132	2,475	2,405	2,817
光学基本機器製品(HW)	702	727	776	792	685	743	855	995
自動応用製品(MS)	423	438	536	461	435	455	467	603
光学素子・薄膜製品(OP)	1,188	1,263	1,336	1,111	1,011	1,276	1,083	1,218
システム製品事業	355	494	528	542	390	482	376	459
光学システム製品(SY)	355	494	528	542	390	484	376	459
消去	△14	△27	△29	△26	△17	△21	△33	△27
合 計	2,654	2,895	3,148	2,882	2,505	2,936	2,748	3,249

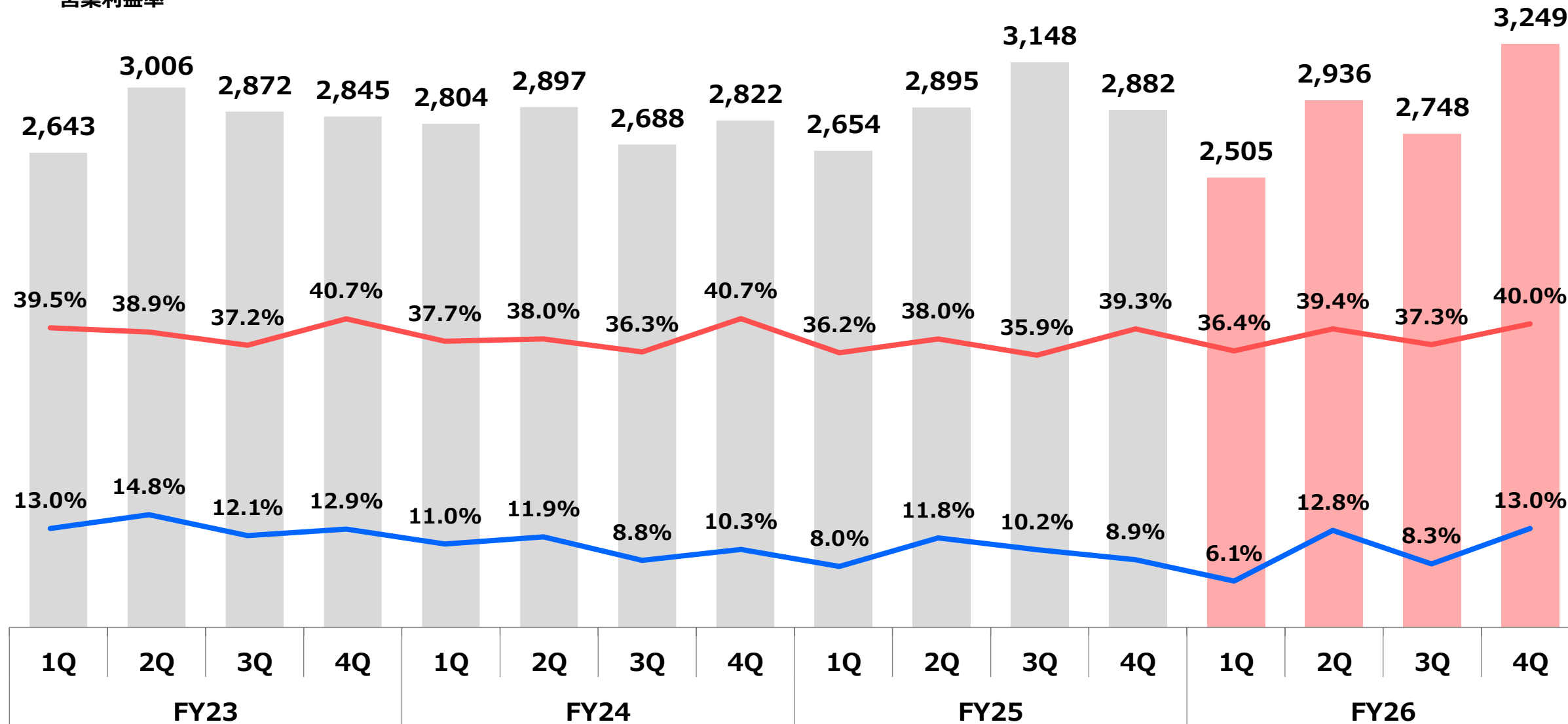
営業損益

	FY25'1Q	FY25'2Q	FY25'3Q	FY25'4Q	FY26'1Q	FY26'2Q	FY26'3Q	FY26'4Q
【百万円】	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績
要素部品事業	352	477	445	366	262	442	358	573
システム製品事業	△12	5	18	61	17	66	10	16
消去	△127	△143	△142	△171	△127	△133	△139	△166
合 計	212	340	321	256	152	374	229	423

売上高・利益率推移

- 売上高
- 売上総利益率
- 営業利益率

(百万円)



グループ会社別売上高・営業損益



売上高

【百万円】

			FY24	FY25	FY26
シグマ光機	本社：日本	開発、販売、生産	9,287	9,380	9,245
OptoSigma	本社：アメリカ	販売	1,807	1,796	1,965
OptoSigma Europe	本社：フランス	販売	784	944	1,001
SHANGHAI SIGMA KOKI	本社：中国	生産	612	928	946
OptoSigma Southeast Asia	本社：シンガポール	販売	222	255	254
消去又は全社			△1,501	△1,725	△1,975
連結			11,213	11,580	11,439

営業損益

【百万円】

			FY24	FY25	FY26
シグマ光機	本社：日本	開発、販売、生産	1,545	1,529	1,493
OptoSigma	本社：アメリカ	販売	59	△83	7
OptoSigma Europe	本社：フランス	販売	7	39	△3
SHANGHAI SIGMA KOKI	本社：中国	生産	6	100	97
OptoSigma Southeast Asia	本社：シンガポール	販売	△2	△5	12
消去又は全社			△438	△450	△428
連結			1,178	1,131	1,179

売上原価の推移

【百万円】	FY24		FY25		FY26		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	YoY
売上高	11,213	100.0 %	11,580	100.0 %	11,439	100.0 %	△1.2 %
売上原価	6,928	61.8 %	7,254	62.6 %	7,045	61.6 %	△2.9 %
材料費等	4,614	41.2 %	4,550	39.3 %	4,097	35.8 %	△9.9 %
労務費	1,754	15.6 %	1,928	16.7 %	2,027	17.7 %	+5.2 %
減価償却費	248	2.2 %	300	2.6 %	327	2.9 %	+9.0 %
その他	310	2.8 %	475	4.1 %	592	5.2 %	+24.5 %
売上総利益	4,284	38.2 %	4,325	37.4 %	4,394	38.4 %	+1.6 %

販売管理費の推移

FY24		FY25		FY26		
【百万円】	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比 YoY
売上高	11,213	100.0 %	11,580	100.0 %	11,439	△1.2 %
販売管理費	3,106	27.7 %	3,194	27.6 %	3,214	+0.6 %
販売促進費	401	3.6 %	354	3.1 %	354	△0.2 %
広告宣伝費	100	0.9 %	98	0.9 %	113	+15.0 %
人件費	1,342	12.0 %	1,448	12.5 %	1,507	+4.1 %
減価償却費	81	0.7 %	62	0.5 %	69	+11.4 %
試験研究費	339	3.0 %	335	2.9 %	362	+8.3 %
その他	840	7.5 %	895	7.7 %	807	△9.8 %
営業利益	1,178	10.5 %	1,131	9.8 %	1,179	+4.3 %

主要設備投資

○FY24実績	
・オプトシグマ新社屋リノベーション・設備投資	4.8 億円
・能登工場増築(当期支払分)	3.1 億円
・白山技術センター増築(当期支払分)	1.5 億円
・情報システム投資	0.4 億円
・上海シグマ光機設備投資	0.4 億円
○FY25	
・オプトシグマ新社屋リノベーション・設備投資	1.4 億円
・基本機器設備投資	0.6 億円
・検査測定機器	0.5 億円
・能登工場増築(当期支払分)	0.4 億円
○FY26	
・上海シグマ光機設備投資	0.7 億円
・基本機器設備投資	0.3 億円
・オプトシグマヨーロッパ設備投資	0.2 億円
○FY27見込み	
・光学素子設備投資	2.9 億円
・能登工場設備投資(基本機器・光学素子)	1.5 億円
・オプトシグマ設備投資	0.8 億円
・上海シグマ光機設備投資	0.4 億円
・販売ウェブサイト改修	0.4 億円

研究開発費補足説明

【百万円】

○人件費等

人件費等		研究開発費 (人件費込み) 売上高比率
FY24	265	3.0%
FY25	266	2.9%
FY26	295	3.2%
FY27見込	285	3.3%

○部材費

	自社	うち産学官連携
FY24	73	24
FY25	68	35
FY26	67	27
FY27見込	100	19